

<人口の現状分析>

- ・市の総人口は、1988年（S63）の188,782人をピークに、1997年（H9）に187,768人となって以降、減少
- ・年齢3区分別人口では、1985年（S60）に対して2010年（H22）は、15歳未満の年少人口が45%の減少、65歳以上の老年人口が2倍以上に増加
- ・自然動態、社会動態とも減少
- ・このまま推移すれば（合計特殊出生率が現状並みの1.4程度、人口流出が2020年に半減し継続すると仮定）、2060年の市の総人口は、92,014人まで減少

<人口の将来展望>

- 目指すべき将来の方向
「短・中期的」人口減少の抑制、人口減少に対応した地域づくり「長期的」出生率の向上による人口の確保と人口構造の若返り
- 人口減少への対応の基本的視点
①若者の定住を促進する ②若者が安心して働き、子どもを生み育てられる地域社会を実現する ③人口減少に対応可能な地域をつくる
- 人口の将来展望
2060年に●人程度の人口を確保

<まち・ひと・しごと創生の基本的な考え方>

○まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立
本市は、高岡の文化力を活かした取組みにより、新しい価値や文化、産業を創出し、市民の暮らしの質や豊かさを高めていく「文化創造都市」を推進している。
高岡ならではの文化創造活動の実践を通じて、ものづくりを背景とする「しごと」が多様な「ひと」を呼び、「ひと」が創造性を活かして新たな「しごと」を生み出す好循環を確立するとともに、その好循環を支える「まち」に文化の力によって活力を呼び起こし、若者や女性が夢や希望を持っていきいきと暮らせる高岡ならではのまち・ひと・しごと創生、すなわち文化創造都市の創生を目指す。

○しごとの創生

ものづくり、交通基盤などの強みを活かし「稼ぐ力」と「やりがい」のある魅力的なしごとの創出
地域の「稼ぐ力」を地域経済の活性化に結び付けるサイクルの構築

○ひとの創生

文化、歴史・伝統、自然、ゆとりある住まいなどの魅力を活かした住みやすく、子育てしやすい環境づくり
若者や女性が力を発揮しやすい社会の形成
文化創造都市を担う人材の育成と確保

○まちの創生

安心して快適な生活を送ることのできる地域の実現
若者や女性が活動しやすく、新たな価値や発想、文化が生み出されやすいまちづくり

<基本目標と基本的方向>

<基本目標①>

魅力的なしごとの挑戦できるまちをつくる（働く場）

成果目標 ●●●

地域産業の競争力強化
ものづくりの魅力の発信による販路の拡大
戦略的な企業立地の推進による産業集積の促進
創業支援による新事業の創出と起業の促進
魅力的な観光地域づくりと広域観光の推進

<基本目標②>

多様なひとが住みたいと感じるまちをつくる（住まい）

成果目標 ●●●

若者、女性など多様なひとの定住の促進
大学生のまちづくりへの参画と定着の促進
まちなかにおける安全・安心な生活環境の整備と居住の促進

<基本目標③>

安心して子どもを生み育てられるまちをつくる（子育て）

成果目標 ●●●

しごとと子育ての両立の推進
地域で子育て家庭を支える社会の形成
安心して子育てができるサービスの充実
地域の文化に誇りと愛着を持つ子どもの育成

<基本目標④>

快適に暮らせ、創造的に活動できるまちをつくる

成果目標 ●●●

コンパクト・アンド・ネットワークの推進による快適な生活と持続可能な都市経営の確保
広域連携による活力ある経済・生活圏の形成
「創造の場」の形成による創造的な活動の活性化